

しおんだより VOL.33



思温病院 医療法人嘉健会
SHION HOSPITAL

万病に効く薬はないが、栄養は万病に効く

私が医師になったのは1995年ですが、その頃に比べると色々なお薬が開発され、臨床現場で用いられるようになってきました。その頃では考えられなかったような、革新的な新薬が、今は多くの患者さんを救っていることはすごいことだと実感することも多いです。ただ、万病に効く薬はありません。

一方、栄養は、この30年ぐらいで、その在り方も変わってきました。フレイルという言葉も少しずつ一般のメディアでも取り上げられるようになりましたが、そんな時代を見越したように、日本静脈経腸栄養学会の初代理事長、小越章平先生が、冒頭の言葉を残されています。

当院には、様々な、しかも複数の疾患を持つ患者さんが入院されています。退院を目指される方も多く、栄養の在り方が今まで以上に重要になると痛感します。そんな患者さんを支えるべく栄養サポートチーム（NST）メンバーが、今日も、それぞれの専門性を持ち寄って協力しながら、ベッドサイドで活躍しています。

当院には栄養サポートチームがあり、医師、管理栄養士、薬剤師、言語聴覚士、看護師などが連携し栄養サポートをトータルに行っています。

管理栄養士の専門性を活かして患者さんの療養を支援します

管理栄養士さんは、病気を患っている方や高齢で食事がとりづらくなっている方など、一人ひとりに合わせて専門的な知識と技術を持って栄養指導や給食管理、栄養管理を行っています。

高齢化が進む我が国で、特に、大阪市内でも高齢化率が高い西成区に位置する当院では、お口から食事がとれるか、十分な栄養がとれるか、といったことは切実な課題です。

医師、看護師、薬剤師が医療をサポートしつつ、管理栄養士や言語聴覚士が連携して栄養を支援していくことで、治療の効果はより高くなります。

高齢者の方に最適な医療を提供するために、これからもチーム一丸となって活動していきます。



病院内ではマスクをしていますのでわかりませんが、その下では、それぞれが素敵な笑顔で、皆様の療養をサポートしています。

目にする花が変わることで、季節が変わることを実感します

もうすぐ夏休み。この季節には、小学校で渡されたであろう植木鉢に、朝顔が咲いているのをちらほら見かけるようになります。

私も、理科の授業で6月ごろから朝顔の種を育てていて、それをえっちらおっちら家まで持ち帰って、夏休みの絵日記には、その成長の過程をあれこれ書いていたような気がします。もう40年以上前のことですが…。

最近では、週末の朝、自宅の周りをランニングすることも多いですが、その時にも色々なところに咲いている花が目に入ります。

春には桜、梅雨には紫陽花、夏には朝顔、などなど。先週は咲いてなかった場所に咲いている花を見つけると、なんだかうれしくなって、スマホを取り出し写真に収める…。そんな感じでのんびり走っています。（文責：狭間研至）



朝顔に限りませんが、ある時に一齐に咲き始める季節があります。それにしても、この色の朝顔が咲き誇っているのをみると、ああ、夏が来たなあ！と実感して、暑いながらも、うれしくなります。

しおんだより 第33号 発行日：令和5年7月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp